
電撃の魔術

トレーナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電撃の魔術

【著者名】

Z4695BA

【作者名】 トーナー

【あらすじ】

魔術が存在する世界

記憶喪失で超楽観少年、ライト
そんなライトの戦いが今、始まる！！

ライト「お腹が……へつ……たつ……」

放浪生活一ヶ月目、それ以前の記憶はない
覚えてるのは、自分の名前と言葉だけ
目が覚めた所はこの森の中、旅でもしてれば記憶も戻るだろー、そ
んな単純な考えで動いているが、未だ森から出られない

ライト「ヤバイ……も、もう……限界……かも……」

それにこの三日間、何も口にしていない

ギュルルルルウ～

また鳴った、三分に一度のペースで腹が鳴る
足取り重く、フラつきながら、よつやかく立っている状況だ

ライト「…………んつ？…………んん？」

空腹とこつ脳の試練、もがいていた彼にとって“町”ほど心躍るものがあるのだろうか？

ライト「町だ……町だア～～！」

森から出ると丘の向こうに町が見える
小さな港町、随分とにぎわっている

ライト「食べるぞウ…………お腹いつぱい……！」

うひょー！、歓喜の叫び声をあげ、港町の門をくぐる

「ねやじゅーんー。220ト、リリヒ置こへよ
ー。」

「まいどー。」

テントの様な簡易の店が密集してこる
商店通り、だ

「セレの少年ー。」

「ライアト？」

ライアトは声のした方向を向く

「ライアト、俺？」

「セリセリ、君だよー。君ー。」

声の主は男だ、多分。マントを身に付け、マスクをかぶつてこるので田しが見えない

「ライアト？」

「随分とやつれているじゃないか？これをお食べー。」

赤い果実を取り出し、ライアトに差し出す

「ライアト、お金、持つてないよ。」

「ここんだよ…どうせ売れ残るんだ…」

ライア「じゃあ、 いただきま～す…」

シャリシー・ヒガジル

男は「…」

ライア「…」

「…か…か…じゃあ、 これ…」

男は赤い果実を五つほどライアに渡す

ライア「…」

「…んな」

「…」

「ああ、 霊鬼よ… 旅の」

「」

ライア「…」

男は「」

ライア「あれ? あの人は? ?」

テントすら見当たらない

ライア「? まあ、 いいや…」

スースと息を吸う

ライア「ありがとオ～～～～」

聞いているだらう男に叫ぶ
町の人々は、不思議そうな顔でライトを見ている

「フフフ……お互い様です」

男はニヤリと笑う

ライト「さて……どうするか」

行き先に迷う

町人に聞く限り、この町から出でている船に乗ると『プレジアーネ』
と云う町に着くらしい

ライト「行くか！ その町つてのにーー！」

船は無料で乗れるらしい

「兄ちゃんー！ プレジアーネに行く氣かい？ 学園入学なら諦めなー！」

船長らしき人が話しかけてくる

ライト「学園？」

船長「なんだ、学園入学希望者じゃなかつたか！プレジアーネ学園つてのは、探検や救助、魔導師退治などを専門に扱う奴の教育機関だ」

ライト「魔導師？」

また新たな疑問が生まれる

船長「はあ……、兄ちゃん、何も知らないんだな？魔導師つてのは魔術を扱うことができる奴の事だ。

魔導師退治つてのは、魔術を悪用する魔導師を捕まえる事だ！」

ライト「魔導師に……魔術？」

軽くまとめるに、世界には凄い人がいるらしい…

ライト「魔導師に俺もなれるかな！？」

潮風が気持ち良い

そんな話をしている内に『フレジアーネ』に到着！

ライト「よつーつとー！」

ライトは船から港に飛び降り、船長に御礼を言い、歩き出す
町人からの聞き込みで学園の場所は分かつている

ライト「ギルドかー、魔導師かー、面白そーー。」

クスクスと笑う

体全体で喜びを表現する
少年の足は迷いを知らず、学園を目指す

世界観なんですが、魔術の世界は少し文明が遅れている、という考え方をもつていますか？

しかし、ライト達の世界はケータイ電話や、パソコン、テレビなどあります。

「ライト」…………

ライトは啞然、それもそのはず
なんせ……道が無い、あるのは大きな湖だけ

「ライト」「どうしろと…………？」

冬後半、こんな時期に湖に入つたら命の危機だ、それに実際危険があるのには変わらない
、現に何か巨大な影が「うー」めいている

「ライト」「しゃーない、覚悟決める、か」

ドボン！！

ライトは湖に飛び込む

ライト「うーふゅー、ふーふーほー」ぐびー（うひゅー、流石に寒いな
～）

ライトの口と鼻の先を巨大な電気ナマズが、通り過ぎる
ライティナマズという種類です

ライト「ばふば～ばほびょばびー」ふよー！～？
（なんだ？あの巨大ドジョウー～）

（注・巨大電気ナマズです

ライトは泳ぎだす、が、何かにぶつかる

ライト「げぶぶ！？（なんだ！？）」

少年がぶつかったのは、ライティナマズ

バリバリバリ！…ビリ！バチバチバチ！…

ライティナマズが放つた電気がライトを襲う

ライト「ぱつぶつぱつ！ぱびばがじぶぶつかるべ…（まつぱつはつ！なかなかの電撃だな！…）」

ライトには効かない、まあ、服は大分焦げたけど……
なぜ効かないのか？本人は自覚していないが、一ヶ月間の放浪生活
によつて、魔術に必要な、体力、精神力、は、もう十分といつてい
い程高まっていた
もつ、ライトの体には無意識に魔力が流れしており、雷属性だつたた
め、ライティナマズの電撃が効かない、というわけだ

ライト「びば～ごべ、ばばがぎょくぶびぱつぱが～（いや～俺、体
丈夫になつたな～）」

真つ暗な水中を再び泳ぎだす

ライア「ふはあつー！」

水面から顔を出す
気が付くと、陸があり、建物が建っている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4695ba/>

電撃の魔術

2012年1月14日22時49分発行